

支え、支えられ成り立つもの

志村第二中学校3年

石橋帆花

私は、税について良いイメージを持っていなかった。なぜなら私たちが支払う税金の使い道について、世の中の様々な意見を見聞きしていたからだ。だが、本当にそうなのか。色々な使い道を調べてみると想像と実際の税金の行方は全く違うことを知った。

その一つ目は、私たちが学校を利用するための税の使い方だ。学校と税金は深く関わりがある。例えば、校舎、体育館、プール、机や椅子、実験器具、教科書、パソコンなど、これらのものは全て税金によって支給されている。この中でも特に大きな存在なのは学校の校舎だ。校舎の建設費には大半が税金で、他は国からの補助金で成り立っている。私は校舎がほとんど税金によってできていると知り、私も校舎の建設に少し関わっていたんだなと感じた。私が実は知らないだけで税金を通して社会に関わっていることを実感した。

二つ目は、風邪をひいたときは病院に行き、無償で薬をもらえることだ。当たり前薬をもらえるのは、「当たり前」という言葉で片づけてはいけなくらいの国民の努力がある。仕事に出て働き、税金を納める。このサイクルを崩さないでいてくれる方々がいるからこそ、私たちが快適に暮らすことができていることを忘れてはならない。今も昔も変わらない、人々が生きていくための社会の仕組みがあり、有難みをより感じた。

私はここまで税金の行方を学び一つ疑問に思ったことがあった。それは、「国は何故学生である私たちにこんなにも様々なところに税金を使ってくれているのか」ということである。学校の建設にもほとんどが税金で、他にも国からの補助金がでている。また、薬の無償提供においては中学三年まで提供してもらえる。この答えは教科書の裏のはしにあった。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」

たったこの一文にこめられた想いをちゃんと考えたことは今までに無かった。なので、これをきっかけに、税とは何かについてを考えてみた。その中で自分なりに答えを導いてみた。私の考えは、「税とは、今と未来をつなぐ一本の橋のようなもの」だ。これからの未来のために国民は税を払う。そしてその想いを私たち学生が受け取り未来へつなぐものなのではないか、と思う。そして、この橋を支えているのは税金を払っている日本じゅうの方々にこの橋を渡っているのは私たち学生だ。

「私たちは常に支えられ、支えて生きている。」

この言葉は「税金」という世界にも通用するものだ。人はつながりを持ちながら一生生きていくんだと感じた。そして、そのつながりを持つための努力も合わせて税金を払うことだ。人々の努力によって成り立つ国にいつまでもなっていてほしいと願う。